

年五月平軍加賀に侵入の條に、『加賀の住人井家二郎範方十七騎の勢にて、根上りの松の程まで返合々々十一度まで散々に戦ひけるが、大勢に被取籠て範方終に討れりけり。』とある。又義經記卷七には、『判官その日篠原に泊り給ひ、明くれば齋藤別當實盛が手塚太郎光盛に討たれける成合の池を見て、安宅の渡を越えて根上の松に着き給ふ。是は白山權現にほつせを手向くる處なり。いざや白山を拜まんとて、岩本の十一面觀音に御通夜あり。』と見え、そのほつせは法施で、根上松の樹下に白山の遙拜所があつたのであらう。この根上松は能美郡根上村にあつたと思はれるが、越登賀三州志には、『今能美郡板津郷内に根上村といふあり。其村並なる高坂村の上に根上松一株あり。甚だ老樹にして根形龍蟠、土を抜あがること最高く、鐵綱を掛けたるが如し。是必ずいにしへよりの根上松なるべし。』として居り、それでも義經記に安宅渡を越えてといつた地理に適つて居る。併し明智記に、『永祿八年五月光秀加州山代の温泉へ入湯し、夫より湖越の根擧り松を見物しけるに云々。滿湖の越えてや洗ふあらかねの土もあらはにあらかねの松。』とあるのは、越前誌に湖越に五株の松あり。其の一を御所松、二を根擧松、三を膝突松、四を亂松、五を千貫松と稱するものゝこと、能美郡の根上松とは全く別物である。

ネアガリマツシラヤマジンジャ 根上松白山神社 能美郡根上に在つた。式内舊善社記に、『根上松白山神社。根上村鎮座。今稱白山權現。舊傳云。此地往昔白山神社遙拜之地也。』とあるが、今同地には根上稻荷神社を見

るばかりである。越登賀三州志には根上松を、根上の隣邑高坂に在つたとするが、その高坂にも高坂白髭神社の外に社殿を存せぬ。

ネアガリヤカタ 寢上館 石川郡上福増に在つた。寶永誌に、寢上市左衛門の居跡であると記する。市左衛門は能美郡根上から出た人であらう。

ネキ 根木 鳳至郡南北郷に屬する部落。
ネキガハ 根木川 鳳至郡根木領境から流出し、同領で海に入る。流程四軒許。

ネコガダケ 猫ヶ嶽 珠洲郡角間部落の西方の山。高さ四一三米。地質第三紀層。

ネコジマ 猫島 能美郡尾添附近にある地名。金子有斐の白山遊覽圖記に、尾添原の東北に在つて、藁藁蕪穢狼藉甚だしく、野猫穴居し、臭氣鼻を撲つて近づくを得ぬとある。

ネコジヤマ 猫地山 ↓ナラジヤマ 檜地山。

ネコヅカ 猫塚 金澤法船寺の境内に在る墳墓で、もと石碑があつたが、今は小地蔵を安置してある。享保の頃、當寺に於いて怪鼠を捉へた猫を葬つた所と傳へる。

ネコテラ 猫寺 ↓リユウシヨウジ 龍昌寺。

ネコノジゴク 猫の地獄 鳳至郡輪島崎の最北端なる龍崎附近に、基部五米に六米、高さ八米の岩塊が孤立して海に迫るものがある。それを猫の地獄と稱する。しかしこの頂に登る爲鶴嘴を以て足場を作つたのを、猫の爪痕に擬して名づけたのか、或は岩下に浸蝕により作られた沙岩の穴があつて、それに猫を投ずる時は再び上り得ぬとの意であるかは明らかでない。

ネコノシマ 猫ノ島 今昔物語に加賀國語に蛇嶋島ノ島行人助蛇住ノ島語がある。加賀國

某郡の漁人等暴風によつて一島に漂着したが、そこに住む大蛇の請を容れて、その地を奪ひに来る蜈蚣を殺した。大蛇乃ち恩を謝して島を漁人に與へ、且つ之に致へて汝等郷に歸らんと思はゞ我これを導くべく、再び島に來らんと欲せば熊田宮に祈つて順風を得よといふた。この島は猫の島で、快晴の日能登國某郡大宮から遠望することができると、これがその梗概である。この條の加賀國及び能登國の郡名は闕字になつてゐるが、その加賀なるは熊田宮から推して能美郡であること確かである。能登に就いては大宮を氣多神社と考へて羽咋の字を補填したものがある。しかし今昔物語の能登國鬼屋島物語に、光の浦から一日一夜にして猫島に至るとあつて、この距離は誇大に失するが、猫島が今の船倉島なること疑なく、隨つて大宮は鳳至比古神社であらうと思はれる。氣多神社からは如何なる日利にも望見し得ることはない。この説話の暗示する所は、船倉島の先住民に對する他地方民の奪掠運動を意味するが如く、而して先住民は偶漂着した加賀能美郡の漁人に救援せられて侵入者を撃退し、因りてその漁權を彼等に讓渡したのではなからうか。

ネコノメ 猫ノ目 羽咋郡柳田の内の小字。

ネゴヤ 根子屋 鳳至郡内保の内の小字。

ネゴロサダザネ 根來貞實 通稱善左衛門。寛永元年初めて前田利常に召出されて三百石を領し、廿年四月二十日江戸御供の途次越中滑川に於いて歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

ネザメノホタル 寢覺の螢 一册。著者の

見聞した、寶曆から文化に亙る金澤及び小松地方の事件を録し、當時の世態を知るに優秀なる史料である。著者は小松の人二口某であるが、その雅號が夏爐庵采首である外は不明である。本名は一名を螢の光ともいふが、その文章には多少の相違がある。

ネシマ 寢島 能登誌に、鹿島郡關村に寢島といふ小島があつて、觀音堂が存する。昔は大樂寺がこゝに在つたとある。

ネズミガハ 鼠川 ↓ハンシヤガハ 般若川。

ネズミコソウジロキチ 鼠小僧次郎吉 天保中江戸に大盜鼠小僧次郎吉があり、治郎太夫とも稱した。次郎吉が加賀の出生であると云はれたことは、天保三年六月廿九日大聖寺聞番出淵新五兵衛から家老前田主膳に宛てた次郎吉に關する報告に、『生國御吟味有之所、加州能美郡小松出生、龜屋何某之伴之由及白狀。當時龜屋何某家名等無之旨及白狀。且右に付先達而東本願寺へ、金子百兩兩親等之祠堂に付け候由。則五月廿七日白狀之由に御座候事。』とあるので知られる。

ネズミダモン 鼠多門 金澤城玉泉院丸より金谷出丸へ通行する門である。金城深秘錄に、『玉泉院丸御門・御土藏は、利常卿御隱居以後被仰付。其節石垣積立、地形根切仕處、鼠影敷土中より出候故歟、鼠多門と名付けられ、御土藏の壁の色も鼠色に被仰付、又長屋を多門と申故、兩様兼ての名目歟。』とある。

鼠族の出たことは俗説であらうが、鼠色の壁をもつ多門造りの城門であつたからの名稱には相違あるまい。坊間に鼠多御門といふたが、これは御の字の添へ場所を誤つたものであ